

評価対象	評価項目	具体的数値項目	関係分掌等	方 策	点検・評価			達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
					自己評価	外部アンケート	総合				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	① webページ、あさひだより、日々の連絡帳等での情報発信により、80%以上の保護者が「学校の様子がよく分かる」と感じている。	教務各学部	○学校として伝えたい特色ある教育活動の内容を取り上げた学校通信を作成する。地域に関わる行事に際して、地域の掲示板を活用し、情報提供する。日々の連絡帳やwebページで各学級における普段の学習の様子や学校行事の際の児童生徒の姿を積極的に情報発信する。	A	A	A	・本校の教育活動について取り上げた「あさひだより」を14回発行し(2/17現在)、情報発信することができた。 ・学校評価アンケートでは、「学校通信や学級通信、webページ、日々の連絡帳などを通して、学校の特色ある教育活動や児童生徒の様子がよく分かる」と感じているという項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて86.8%であった。	・その子のよさや成長について保護者にいい形で伝えたり発信したりできるとさらに成長につながる。	・「あさひだより」で本校の教育活動について取り上げる中で、その活動が児童生徒のどのような資質・能力を育むと考えたか、その結果どのような児童生徒の姿が見られたか、ということを更に分かりやすく伝えていくようにする。	
		② 学校行事や、PTA主催行事等に90%以上の保護者が参加している。		○webページやお便りBOX、通知をとおして、行事やその内容を保護者にわかりやすいように伝える。	A	A	A	・学習発表会について、通知、パンフレットを通して分かりやすく周知することができた。保護者174名参加。 ・PTA行事について、webページやお便りBOX、通知を通して周知することができた。本部・専門部主催行事への保護者参加延べ人数250名。	・Googleformで行事への参加申し込みやアンケート、webページで学習発表会やPTA活動の周知を行うなど、完全デジタルに移行し、保護者の負担軽減を図る。		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	① 居住地校交流を実施した児童生徒の保護者の80%以上が「子どもの成長につながる」と答えている。 ② 学校間交流や地域交流を5回以上実施している。	生徒指導教務	○居住地校交流希望者を増やすために、年度末に希望調査用紙を配付する直前に学部懇談会で居住地校交流の魅力を伝える。 ○あさひだよりやwebページを利用して交流の様子や魅力を伝えていく。 ○交流に向けての手続きを減らし保護者の負担を軽減していく。 ○間ノ島広場への花の定植や地域での販売会等に積極的に参加する。 ○オンラインでのeスポーツ交流を行い、直接交流以外の方法でも地域の方と交流できる機会を増やす。 ○打合せをメールや電話、オンラインなどで行い効率的に進める。	A	B	B	・学校評価アンケートでは、「居住地校交流を実施したことで、児童生徒の社会性の成長や幅広い経験を積むことにつながっている」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答(居住地校交流を実施した児童生徒の保護者のみ)が合わせて77.7%であった。 ・交流に関する手続きや重複するアンケートを減らすことができた。	・地域の小中学校との交流をできるだけ多くもったほうがよい。 ・居住地校交流の手続きを簡素化して分かりやすくし、意義や目的を保護者や担任に説明会等で伝え、児童生徒と保護者の満足度を上げる。		
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	① 専門アドバイザーに相談したケースのうち、その後の指導や支援に助言を取り入れたケースの割合が80%以上である。	地域支援	○相談者の思いやニーズを受け止めるとともに、関係機関との連携を図り、対象児の情報を共有することで、相談者が置かれている環境や実態に合った具体的な助言を行う。 ○年度末にアンケート調査を行うことで、実際に助言が活かされたかどうか確認する。	A	A	A	・地域支援部主催で行った地域向け研修会で、参加者である地域の先生方の思いやニーズを聞いたことで、より具体的に実際の助言を行うことができた。 ・年度末の地域向けアンケートでは、回答のあったうちの87%が、助言を活かして指導・支援を行ったと回答があった。	・夏季休業中に行った地域向け研修会が大変好評だったので、来年度は周知する範囲を広く行っていきたい。 ・専門アドバイザーに対するニーズを聞くための地域向けアンケートの整備を行う。		
		② 「個別の教育支援計画」個別の指導計画」の評価として、個に応じた指導(個別最適な学び)や協働的な学びの結果について、90%以上の保護者が満足している。		○「個別の教育支援計画」個別の指導計画」作成時に担任間、グループ間で十分に検討を行い、個の実態に応じた効果的な指導がなされるようにする。 ○面談時に「個別の教育支援計画」個別の指導計画」について保護者と合意形成を図り、指導支援の内容や評価について連絡帳等でその都度報告する。	A	B	B	・教員間、保護者との検討により、多角的な視点に基づく実態に即した指導計画の作成を行うことができた。 ・目標の達成状況を学期ごとの面談や連絡帳等で伝えていくことで、保護者の理解を得ることができた。 ・学校評価アンケートでは、「保護者の意見を聞き取りながら作成している個別の教育支援計画や個別の指導計画の、内容及び指導結果について満足している」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて89.7%であった。	・「個別の指導計画」における目標設定をより具体化し、評価の客観性を担保するために、教員間の共通理解、検討会の充実をより図れるようにする。 ・校務支援システム「学習計画」を活用して、より個の実態に沿った目標設定や学習評価が行えるようにする。		
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個別最適な学びだけでなく、協働的な学びの充実を図っていますか。	② ICTの活用による児童生徒の学び方やコミュニケーション力の向上について、90%以上の保護者が満足している。	学習指導 自立活動	○本校webページにICTを用いた指導実践例を掲載する。webページの周知は、あさひだより等でwebページのURLかQRコードを載せ、webページのアクセス数増加を図る。	B	B	B	・学校評価アンケートでは、「学校におけるICT機器を活用した学習指導による、児童生徒の学力やコミュニケーション能力の向上に満足している」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が75.0%であった。 ・本校webページにICTを用いた指導実践例を掲載する業務フローを作成し、2月中旬～下旬に実施することとした。	・ICT機器を積極的に活用しようとしている点が良い。子供たちの将来に役立つスキルとなると思うので、今後も重点として取り組んでいくとよい。	・本校HPにICTを用いた指導実践例を掲載することで、保護者や外部向けに周知を図る。 ・ICTを用いた指導実践例の集約と共有を図ることで、校内での指導力の向上を図る。	
		① 校内外の研修で得た知見をもとに実践を行った結果、学習のねらいが達成されたと感じる教職員が80%以上いる。		○校内外研修における研修内容のまとめを随時作成し、教職員がいつでも振り返って、自身の授業に活用できるようにする。 ○校外研修について、特にニーズの高いものと思われるものをkinako、掲示板、一覧の作成等を通じた周知を図ることで、研修参加の促進を図る。	B	B	B	・学校評価アンケートでは、「学校内外の研修に参加することで得られた知見を授業で実践した結果、学習のねらいが達成されたと感じたか」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が77.8%であった。 ・研修部実施の校内アンケートでは、80%以上の教職員が校内外で実施した研修に良かったと回答した一方で、自身の教育活動に取り入れることができたかどうかについての回答は70%程度にとどまった。	・校内外における研修案内の区分分けの工夫、AIを活用した記録の作成、まとめの掲示などを行うことで、研修について教職員に広く分かりやすく周知するよう業務フローを作成した。一方で各教職員のニーズに対応した研修の実施について満足度を高める必要があると考えられる。		
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	① 児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が適切に行われていると回答している。	保健給食	○摂食指導については、担任から保護者へ、摂食の様子を連絡帳や面談にて伝える。必要に応じて自立活動部と協力をし、摂食指導の改善を図るようにする。 ○給食日より、給食の内容や食形態に関する情報を写真にて掲載し、保護者や外部へ発信する。 ○保健だよりを、家庭やクラスでも活用できるように、表示を大きくし、対象を児童生徒に向けた内容にする。	A	B	B	・学校評価アンケートでは、「学校は、連絡帳や個別面談等で共有した情報をもとに、個々の健康上の配慮や対応について適切に行っている」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて85.3%であった。これは第1回より、1.5%上がっているが、目標の90%に到達することはなかった。あわせて「満足できない」の項目も、1.5%上がり、4.4%になっている。 ・給食日より保健だよりは、定期的に発行し、内容も充実しており、役割を果たしていると考えられる。	・健康・安心・安全について先生方が常にそれを意識していると推察する。事故なく過ごせているのは何よりの成果。チームで取り組んでいるということも分かった。	・今後は、摂食指導や健康状態の配慮について、係や養護教諭、担任が連携し、保護者に対して真摯に冷静に適切に対応し、説明責任を果たしていく。	
		② 避難訓練・緊急事態訓練の実施に、全職員がマニュアルに基づいて緊急時における各自の役割を理解している。		○定期的な各種緊急事態訓練を行い、各自がマニュアルに沿った対応ができるようにする。 ○緊急時、各役割をする担当職員の不在や負傷等、様々な状況を想定して対応できるように、運営委員会・職員会議で適時マニュアルを見直す。	A	A	A	・学校評価アンケートでは、「様々な状況の緊急事態を想定した対応訓練やマニュアルの適時見直しを通して、緊急事態における各自の役割を理解できたか」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて82.5%であった。教師が緊急時における各自の役割を理解することができている。 ・今年度は不審者対応、地震避難、野生動物対応、感染症対策、バス緊急事態マニュアルを改訂し、児童生徒引き渡し、校外での地震対応、報道機関対応マニュアルを新規に作成した。	・更新されたマニュアルを職員が利用しやすくなるように、更新の周知、掲示、保管の方法を改善する。 ・各係に必要なマニュアルについて検討を行い、緊急性の高いものから作成・運用することができるようにする。		
7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	① 避難訓練・緊急事態訓練の実施に、全職員がマニュアルに基づいて緊急時における各自の役割を理解している。	管理 保健給食 教務	○定期的な各種緊急事態訓練を行い、各自がマニュアルに沿った対応ができるようにする。 ○緊急時、各役割をする担当職員の不在や負傷等、様々な状況を想定して対応できるように、運営委員会・職員会議で適時マニュアルを見直す。	A	A	A	・学校評価アンケートでは、「様々な状況の緊急事態を想定した対応訓練やマニュアルの適時見直しを通して、緊急事態における各自の役割を理解できたか」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて82.5%であった。教師が緊急時における各自の役割を理解することができている。 ・今年度は不審者対応、地震避難、野生動物対応、感染症対策、バス緊急事態マニュアルを改訂し、児童生徒引き渡し、校外での地震対応、報道機関対応マニュアルを新規に作成した。	・更新されたマニュアルを職員が利用しやすくなるように、更新の周知、掲示、保管の方法を改善する。 ・各係に必要なマニュアルについて検討を行い、緊急性の高いものから作成・運用することができるようにする。			

		② 保護者の90%以上が、学校ははじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると感じている。	生徒指導 各学部	○職員研修を充実させ、いじめに対してはチームで対応することとを徹底する。	A	B	B	・学校評価アンケートでは、「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいる」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて75.8%であった。 ・1か月に1回以上のペースで職員研修を行うことができた。いじめ案件について学部や担任と連携し、保護者連絡や被害生徒のサポートを迅速に行うことができた。	・研修をさらに充実させ、いじめの定義の周知やいじめ発生後の職員や学校全体の対応についてすべての職員が法に基づいて迅速に行動できるようにする。
V 将来の 生き方に 結びつく 進路指導を 行っていますか。	8 キャリア教育の 視点から、指導 内容を整理して系 統的な指導を行 っていますか。	① キャリア教育全体計画(キャリア発達シート)を踏まえ 80%以上の教師がキャリア発達を意識して個別目標の設定や授業を行っている。	進路支援	○関係分掌と連携し、「キャリア教育の視点」「ランドデザインに示した目指す児童生徒像」「校内研修の視点」を個別目標や授業に反映させる。担任間やプロア教師間などで確認し、共通理解を図る。 ○各学部の係を中心にキャリア教育だよりを通じて保護者に発信したり、学部会やグループ会等で話題にしたりすることで、日々の指導がキャリア教育であるという認識につなげる。	A	A	A	・学校評価アンケートでは、「本校のキャリア教育全体計画(キャリア発達シート)を踏まえ、児童生徒のキャリア発達を意識した個別の指導計画の目標設定や授業づくりを行うことができたか」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて87.3%であった。 ・「目指す児童生徒像」や「キャリア発達」を個別目標や授業に反映させていると考える教師のポイントが昨年度より5%以上向上していることから、教師間での共通認識ができていることがうかがえる。 ・キャリア教育に基づいた学習の情報は、各学部3回ずつ、計9回発信することができた。また、発信内容について学内で相談することができた。	・キャリア教育全体計画・キャリア発達シート、ランドデザイン、校内研修の視点等の関連情報について、関係分掌と連携しながら会議や研修で定期的に教師に周知する。「キャリア教育だより」については、情報量を調整しながら、より分かりやすい発信を継続する。
	9 保護者、関係 機関との連携の もとに発達段階 に応じた進路指 導を行っています か。	①学校は「感じたことや考えたことを表現できる児童生徒」の育成に努めていると90%以上の保護者が感じている。 ②「キャリア教育だより」や講演会等の学校からの情報提供が、児童生徒の将来を考える機会になっていると考える教師や保護者が80%以上いる。	全	○個別の教育支援計画の長期目標及び短期目標を設定する際に、目指す児童生徒像の実現を意識して作成できているかを職員間の検討会や保護者との面談の中で確認する。 ○「感じたことや考えたことを表現できる児童生徒」とは各学部の発達段階においてどのような姿なのか、部主事を中心に共通理解を図り、日々の指導にあたる。	A	B	B	・学校評価アンケートでは、「目指す児童生徒像である感じたことや考えたことを表現できる子の育成に努めている」という項目について「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて89.3%であった。 ・日々の学習活動や学校行事において、「感じたことや考えたことを表現できる子」とはどのような姿かを部主事を中心に共通理解し、校内全体で指導・支援の方向性を統一することができた。	・自己表現、社会参加に向けた取組に積極性を感じました。
				進路支援	○ キャリア教育だよりを学期に数回発行し、学校webページにも掲載する。講演会・研修会については、進路支援部とPTA研修部とで連携を図り、保護者のニーズに応えられるようにする。	A	A	A	・学校評価アンケートでは、「キャリア教育だよりの発行とweb掲載、進路支援部とPTA研修部の連携による講演会・研修会は、児童生徒の将来を考える具体的な機会になっている」という項目について、「十分に満足できる」「満足できる」という回答が合わせて保護者では83.9%、教師は95.2%であった。 ・キャリア教育だよりを1学期7回、2学期15回、3学期6回、計28回発行、講演会・研修会も計画どおり実施することができた。また、施設見学においては、生活介護事業所2カ所の見学を、PTA研修部と連携のもと実施できた。
									・児童生徒の実態差や保護者のニーズが幅広く、すべてに応える難しさはあるが、引き続き、内容を吟味の上、「キャリア教育だより」や講演会、施設見学等、様々な機会をとおして、将来について考えるきっかけをつくる。